建設新聞　1面
2006年4月6日版

大阪府 全契約から暴力

合意書に調印する熊本部長㊧と上田局長

からの排除を徹底するため、府と府警相互の連絡協議体制確立の合意書を締結した。大阪府契約局の上田博局長と熊本倫章刑事部長とで取り交わされた。

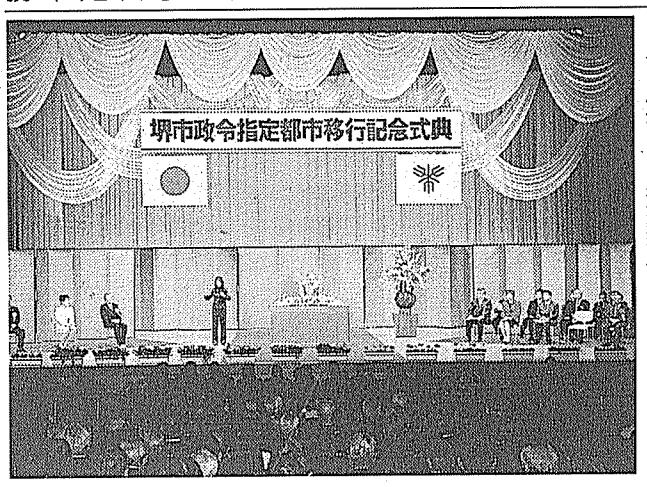
府の暴力団排除方策はこれまで、大阪府建設工事暴力団対策措置要綱に基づき、対策会議を設置し、同会議が定めた排除項目により全庁の建設工事からの排除を目指していた。しかし建設コンサルタントや委託役務、物品その他の契約は対象外で、随意契約では規定もなく、また暴力団の参入手口も巧妙化し、工事への不当介入を招いていた。

このため府では、あらゆる調達契約から暴力団を排除する総合的なシステム構築のため、昨年四月の契約局設立と同時に府警本部と連携しながら検討を進めていたもので、今回、措置要綱等を改正し、適正な暴力団排除を推進するため、本年三月三十一日付けで府と府警との間で暴力団情報提供にかかる合意書の締結に至ったもの。

改正の要点は、暴力団等対策会議設置要綱の制定による「大阪府暴力団等排除対策会議」の設置と、暴力団等排除措置要綱の制定と契約約款等の整備で、これにより、府発注のあらゆる調達契約から暴力団排除が可能となり、暴力団との親密交際及び下請契約禁止など、排除項目が拡大。また、契約約款に解除項目及び違約金条項を規定し、受注業者に対する不当介入事案の報告を義務付けた。

調印式は午後一時三十分から行われ、契約局と大阪府警から担当者が出席。調印に先立ち、上田局長と熊本刑事部長がそれぞれ挨拶した。

上田局長は、入札契約



市民会館大ホールで開かれた記念式典

政令指定都市・堺が誕生

市民ら1200人出席し記念式典

全国で十五番目、近畿では四番目の政令指定都市となった堺市は一日、堺市民会館大ホールで記念式典を開催した。

午後二時から始まった式典には、木原敬介市長をはじめ山崎力・総務副大臣、北側一雄・国土交通大臣、太田房江・大阪府知事らの来賓、市関係者、そして市民ら約一、二〇〇人が出席し、政令指定都市・堺の誕生を祝福した。

式典ではまず、木原市長が式辞に立ち「政令指定都市の実現は歴代市長、そして市民の悲願であり、歴史的瞬間を迎えることができて感無量」と述べ、実現に至るまでの関係者の支援と協力に感謝の気持ちを表した。

そして「新たなスタートであり、未来に大きく飛躍する絶好のチャンスだと考えている。今後は委譲された権限と財源を活かしながら、オンリーワンのまちとして、活力と魅力あふれる『新しい自由都市・堺』の実現に努めていきたい」と力強く決意を示した。

引き続き来賓祝辞へと移り、最初に山崎総務副大臣が「大都市としての総合的な行政を展開し、近畿圏の発展と地方自治の発展に貢献してほしい」とする竹中平蔵・総務大臣のメッセージを代読。次いで、太田知事が「堺のまちは民間の力で気の源として府と共に持続的な発展を」、そして北側国土交通大臣が「政令指定都市にふさわしい品格のあるまちづくりを」とそれぞれの立場から祝福のことばを述べた。

式典ではこの後も、指定都市市長会会長の松原武久・名古屋市長、㈶地方自治研究機構の石原信雄理事長による祝辞、祝電披露に続き、池原喜代子・堺市議会議長が謝辞を述べて閉会した。

なお、午前十時からは、堺区や南区など新たに設けられた七つの区役所で開所式が行われた。

※堺市は明治二十二年（一八八九年）市制施行、平成十七年二月南河内郡美原町と合併、平成十八年四月に全国で十五番目の政令指定都市に移行。人口八三万一、二二四人（二月一日現在）、面積一四九・九九平方㌔。

枚方宿地区〝活性化〟へ始動

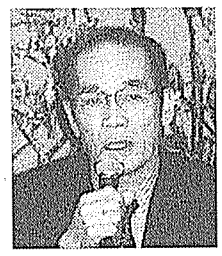
町家情報バンク設立

まちづくり協議会

パネルディスカッションのもよう（左から高田教授、田中代表、早川相談役、藤田社長、恩地社長、文野社長）

記念フォーラム開催 可能性探る

旧東海道の宿場町として栄え伝統的な歴史文化を誇る枚方宿地区（枚方市）で、歴史的建築を守りながら魅力溢れるまちづくりを進めている枚方宿地区まちづくり協議会（平澤英正会長）は一日、歴史と現代の暮らしがコラボレートする新しいまちづくりを実現させたいという観点から、協議会傘下に協議会副会長で㈱ビオルネ代表取締役社長の藤田二郎氏を代表とする「枚方宿町家情報バンク」を発足させた。歴史のまちにとけ込める新町家などをつくり、若い世代を取り入れて、建物も人もこのまちに馴染める環境を形成するのが狙い。また同日は、設立を記念して枚方宿鍵屋資料館（枚方公園駅下車）でフォーラム（主催・同協議会）が開かれた。各地のまちづくりに精通している高田昇・立命館大学政策科学部教授（都市計画家）の仕掛けだ。


枚方宿町家情報バンク代表の藤田社長

枚方宿地区は京阪・枚方公園駅下車、西へ徒歩五分。西見付きから市駅方面へ歴史街道が続き、日本瓦の傾斜屋根に白壁の昔ながらの町家が軒を並べている歴史的なまち並みと恵まれた自然を併せもつまち。街道沿いの大きな敷地には古い建物や間取り・設備が多く、若い世代には住み難い環境とされ、若者の町外転出が起こっていた。また、地区内には空家や空地が増え活気が失われつつあると危惧されていた。そこで協議会で考案されたのが、土地・建物所有者と利用したい人をつなぐ仕組みをつくる「枚方宿町家情報バンク」の設立だ。

設立記念フォーラムは、「町家情報バンクの可能性と枚方宿の活性化」をテーマに開かれ、パネルディスカッションを通じて実践的で効果のあるまちづくりのあり方を考えた。コーディネーターを高田教授が務め、大阪王将のチェーン展開を中心に外食産業で活躍するイートアンド㈱の文野直樹代表取締役社長、恩地食品㈱の恩地宏昌代表取締役社長（協議会幹事）、藤田社長、早川久春同協議会相談役（初代会長）、呼人堂の田中譽子代表（協議会会計）の五人をパネリストに迎えて熱く議論を交わした。

歴史文化かおる枚方宿地区の現況

この中で枚方宿の活性化に向けて文野社長は、豪放磊落な商売人気質をもった昔のくらわんか精神を、枚方宿で再構築したいという観点から「新世代くらわんか～人が集まる魅力的なまち～」をコンセプトとするひとつのプランを示した。歴史的建築の伝承ありきの上で、プランの焦点となる「商店」と「情報」の重要性を説き、枚方で育った食文化の店舗展開をメーンに若い世代のトレンドを知るクリエイターや教育機能をもったテナントの誘致、エコロジーを大切に思える人のルール決め、子供たちがのびのびと遊べる安全で安心な公園づくり、人を呼べるイベント開催などの構想を説明した。また「収益なくしてまちの発展は望めない」と訴え、「情報バンクを通して昔のくらわんか精神をこのまちに根付かせたい」と力を込めた。

このプランに手応えを感じた高田教授は「新世代くらわんかというコンセプトがひとつのキーワードとして、枚方宿地区の活性化につながればと思う」と述べあと、パネラーの方々に私論を求めた。「新世代ということで若い世代が自己表現できるまちになれば」（恩地社長）、「枚方は歴史あるいいまち。若者の商売を応援していきたい」（藤田社長）、「情報バンクの発足を心から感謝している」（早川相談役）、「皆様と一緒に生きたまちをつくることができれば幸せに思う」（田中代表）と、新たなまちづくりへの展開にそれぞれ思いを言葉に込めた。

また、枚方宿で商売を考えている人へのメッセージとして、文野社長は「まずは商売の王道、本物を売ること」とアドバイスし、恩地社長は「世界的なTSUTAYAも、大阪王将も、私ども恩地食品も枚方が創業の地。大きなビジネスへ発展する可能性の高いまち」と枚方の良さをアピールした。また、藤田社長は「情報バンク発足の機会を捉えて、まちを絶対に再生したい」と枚方宿地区の活性化を誓った。さらに早川相談役は「商売をされた以上は長く続けてほしい」といい、田中代表は「自分を信じて素早く行動してほしい」と語った。

最後に高田教授は、これからの情報バンクの活動として、広い情報の発信、使える町家の確保、町家を借りたい方への登録制度の実施、町家や建物を貸したい方や借りたい方のバックアップ体制の構築―の四点をあげた。また高田教授は、「様々な組織と人の力をフルに活用しながら、着実に情報バンクの体制を整えたい。新世代くらわんかがまちの形として実現することを心で確信した」と話した。

パネルディスカッションに先立って、高田教授による基調講演が行われたほか、陶芸家の坂本光枝さんと高田教授による対談、柏原ヤソヨシと枚方ジャズメッセンジャーズのJAZZセッションが披露された。

「新世代くらわんか」構想に確かな手応え

高田教授の話　各地で町家等の保存再生が叫ばれている。枚方宿では地元のまちづくり協議会から、町家情報バンクという確かな仕組みが生まれた。地元の有力企業や行政、まちづくりの有志たちが全面的にバックアップしてくれるので、新しいまちづくりの動きとして期待は高い。全国の歴史都市や伝統的建造物群保存地区のモデルケースになればと思っている。

新社長に瀬藤利生副社長

鳳工業 齋藤社長は特別顧問に

瀬藤新社長

鳳工業㈱は一日付で、瀬藤利生取締役副社長が代表取締役社長に昇格したと発表した。齋藤盛司代表取締役社長は特別顧問に就任。

瀬藤　利生（せとう・としお）神戸大学法学部卒業。63年鴻池組入社、83年大阪本店労務安全部長、96年取締役、97年本社業務本部副本部長兼安全管理部長、00年常務取締役、01年名古屋支店長、02年専務取締役。05年鴻池組退社後、鳳工業取締役副社長。高松市出身、66歳。

戸田部長

行うとともに、土木部を都市整備部、建築都市部・建築都市部技監、水道部長に近藤忠幸・村野浄水場長がそれぞれ就任。都市整備部長は丸岡耕平・土木部長に。また課長級では、建築振興課長に西谷一彦・総務部管財課参事が就任した。阪倉嘉一・建築都市部長は退職。なお、部長級・課長級の主な人事は次号掲載。

科卒、62年6月スタンフォード大学院修士。53年

協力して新システムの構築に取り組んできた」と

や公正性を維持する仕組みは必要であり、府民も

団排除措置要綱の定める①暴力団員が経営又は経

一日と四月一日付けで人事異動を発令した。また